



病院薬剤師による 『薬学的ケア』



近年医療現場では、一人ひとりの患者さんの状態に合わせて、さまざまな医療関連職種の特 門家たちが連携し、治療やサポートを進めていく「チーム医療」の実践が広が

っています。チーム医療において薬剤師の特 門家である薬剤師が主体的に薬物療法に参加することは「医療の質の向上」および「医療安全の確保」から極めて有益です。たとえば、病棟において、副作用の発生リスクを下げるために患者さんの状況をチェックし、もし、副作用の兆候が見られる場合は、薬剤を処方している医師に問い合わせ、状況を説明して、薬剤の使用停止を提案したり、薬剤量の組み合わせ・飲み合わせの調整を行ったりします。このように薬剤の副作用を予測したり回避したりするアプローチを「薬学的ケア」といいます。その他に「薬学的ケア」としてあげられるのは、入院患者さんの持参されたお薬を確認し、管理や整理、治療歴・副作用歴・アレルギー歴を考慮して投与計画を立てる、あるいは服用計画を立てるということも「薬学的ケア」の1つです。「薬学的ケア」はひとり立ちできるものではなく、病院薬剤師が実際に患者さんの顔色や状況を見極めながら活用することに意味があります。逆に言うと、「薬学的ケア」があるからこそ、病院薬剤師が判断できる幅が広がっている＝治療の幅が広がっているとも考えられるため、「薬学的ケア」がこの後さらに重要になってくることは言うまでもありません。

これからの「薬学的ケア」で最も期待されるのは、医師に代わって薬剤師が、薬剤連用の経過観察中に発生する重篤な薬害の防止の分野で活躍することです。たとえば、間質性肺炎の防止なら、空咳のチェックを始め、聴診器で肺の音を聴診することです。また、突然死の副作用のある薬剤なら、心電図を測

定してQT延長の有無・異常をチェックすることです。糖尿病の分野では「微量の注射や採血」をして血中濃度測定することです。そして異常を認めたら医師に連絡をして症状が重篤になる事を防ぐことです。

チーム医療において、薬剤師の特 門家である薬剤師は「薬学的ケア」を行うことにより、患者さんに高度な医療を提供する一環を担っています。

薬剤師 平井 祥子

平成24年10月より…

脳神経外科専門医が担当する

脳神経リハビリテーション科

「脳卒中外来」を開始しました

【診察日】 毎週金曜日 午前

【担当医師】 ふじた こうじ
藤田 晃司

【資格】 ◆日本脳神経外科学会専門医
◆日本脳神経血管内治療学会専門医

外来診察担当医表

	9:00 ~ 12:00	
	1診(医師)	3診(医師)
月	内科 (速水)	※1 ペインクリニック内科 (上田)
火	内科・消化器内科 (間嶋)	※1 ペインクリニック内科 (上田)
水	内科・※2 神経内科 (片山)	※6 整形リハビリテーション科 ■第1週・第3週(滋賀医大)
木	内科・※3 循環器内科 (高橋)	※4 リハビリテーション科 (藤井)
金	内科・血液内科 (杉山)	※5 脳神経リハビリテーション科 (藤田)
土	内科・消化器内科 (浅井)	※6 整形リハビリテーション科 (滋賀医大)

<火曜日 14:00~16:00> 神経内科外来(片山)

- ※1 ペインクリニック内科は、麻酔科認定医が担当
- ※2 神経内科は、神経内科専門医・脳卒中専門医が担当
- ※3 循環器内科は、循環器内科専門医・高血圧専門医が担当
- ※4 リハビリテーション科は、リハビリテーション専門医が担当
- ※5 脳神経リハビリテーション科は、脳神経外科専門医が担当
- ※6 整形リハビリテーション科は、滋賀医大の整形外科医師が担当